

外国雑誌センター館活動評価(2008年度版)

外国雑誌センター館活動評価(2008年度版)では、外国雑誌センター館(以下「センター館」という。)の活動について、従来どおり「レア・ジャーナル¹の収集」と「文献複写サービスの提供」を中心に分析・評価を行った。

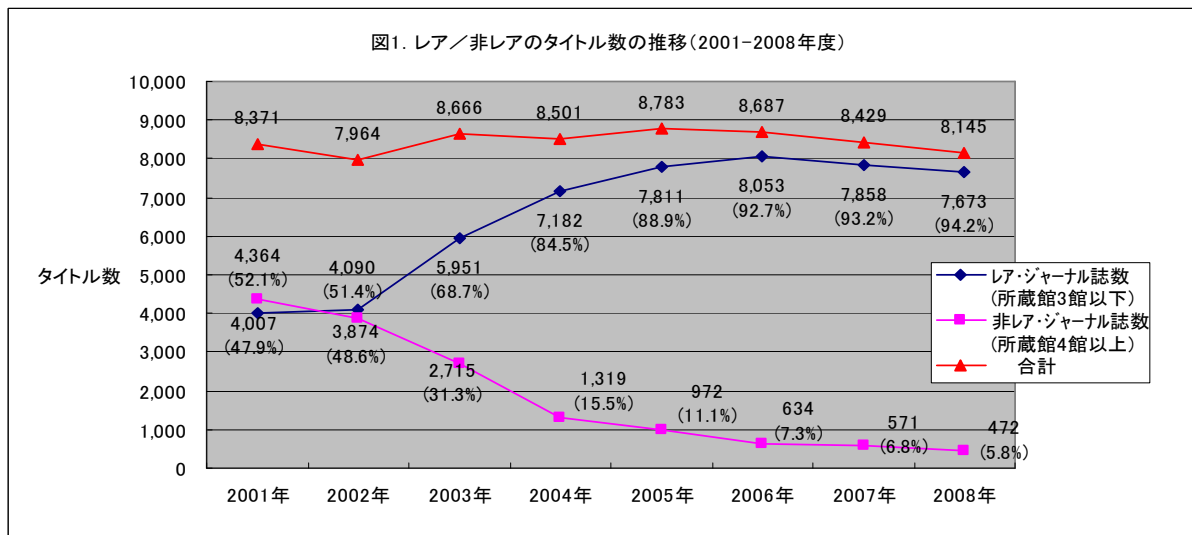
分析・評価にあたっては、各センター館から提出されたデータを集計し、センター館全体の過去8年間の活動の推移をまとめ、それを基に分析を行っている。

なお、各館のNACSIS-ILLシステム(以下「ILLシステム」という。)経由の文献複写サービスのデータは、国立情報学研究所(以下「NII」という。)の協力により毎年提供を受けており、各年4月現在のものである。その他のILLシステム関係のデータは、NIIがホームページで公開しているNACSIS-ILL統計情報に依っている。

1. レア・ジャーナルの収集について

(1) 所蔵館数別タイトル数の推移

電子ジャーナル化や雑誌購読価格の高騰を受け、センター館誌数は2005年度をピークに減少している。センター館誌に占めるレア・ジャーナルの割合は2001年度以降増加を続け、最近の3年間は90%以上という高率で安定している。2008年度には94.2%に達した。(図1)



¹ 「レア・ジャーナル」とは、収集が困難あるいは国内の継続所蔵館数が3館以下の外国雑誌とする。

(2) 所蔵数別中止タイトル数の推移

センター館では 2005 年度²以降も毎年タイトルの中止を行っている（表 1）。これは、各館とも毎年継続して、国内の収集状況及び雑誌の利用状況を見ながら、購入タイトルの検討・入れ替えを行っているためである。

なお、外国雑誌の契約手続きは年単位であり、所蔵館増加による購入中止の検討開始から実際の中止までに複数年が必要となるため、今後も非レア・ジャーナルの全ての中止は難しいと思われる。

表 1. 所蔵館数別中止タイトル数の推移(2002-2009 年度)

館数	2002 年	2003 年	2004 年	2005 年	2006 年	2007 年	2008 年	2009 年
3 館以下	90	172	148	166	465	433	581	226
4 館以上	643	1,220	1,450	446	177	109	135	120
合計	733	1,392	1,598	612	642	542	716	346

以上の結果から、センター館は、国内未収集の外国雑誌の収集・整理において十分な成果を挙げているといえる。収集活動は安定期に入り、収集誌数や中止数には大きな変化がないと予想される。なお、この状態を維持するために、今後も引き続きタイトル選定などで各館の継続した努力が求められる。

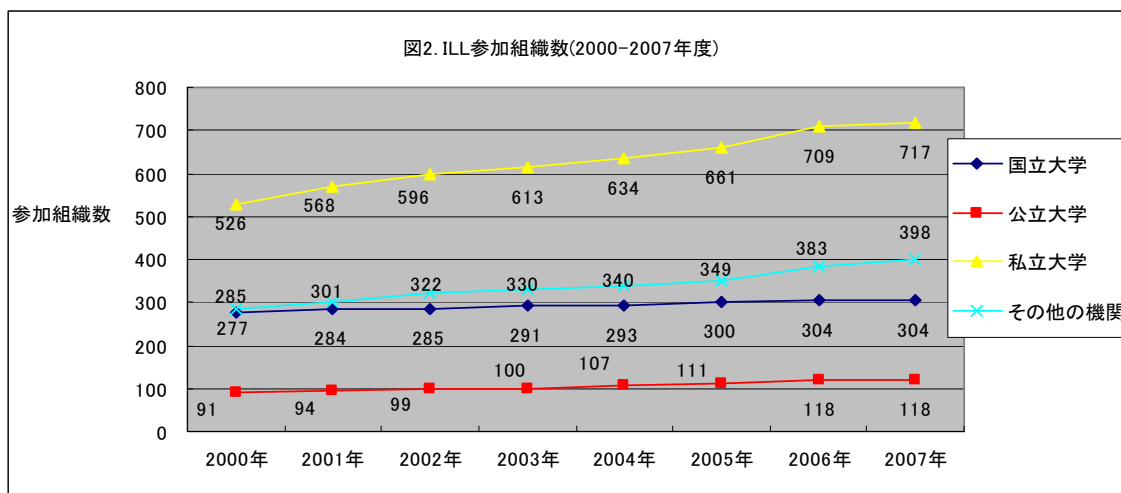
2. 文献複写サービスの提供について

(1) ILLシステム経由文献複写サービスの全般的な利用動向

ここでは、NACSIS-ILL 文献複写サービス全般の利用について傾向を述べる。データは、NII ホームページ上の「NACSIS-ILL 統計情報」に依る。

① ILLシステム参加機関・参加組織数

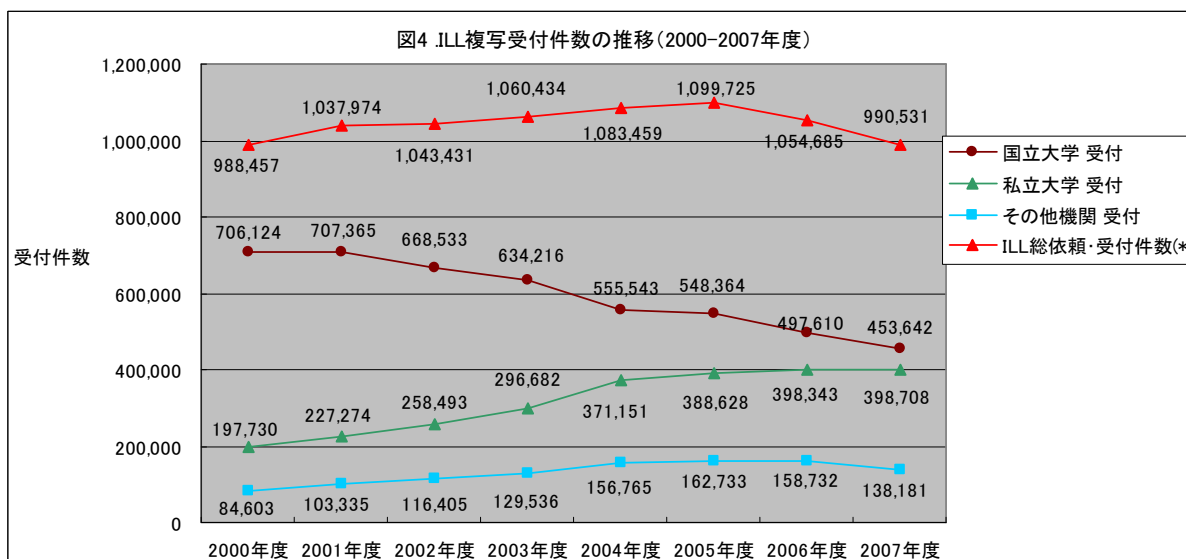
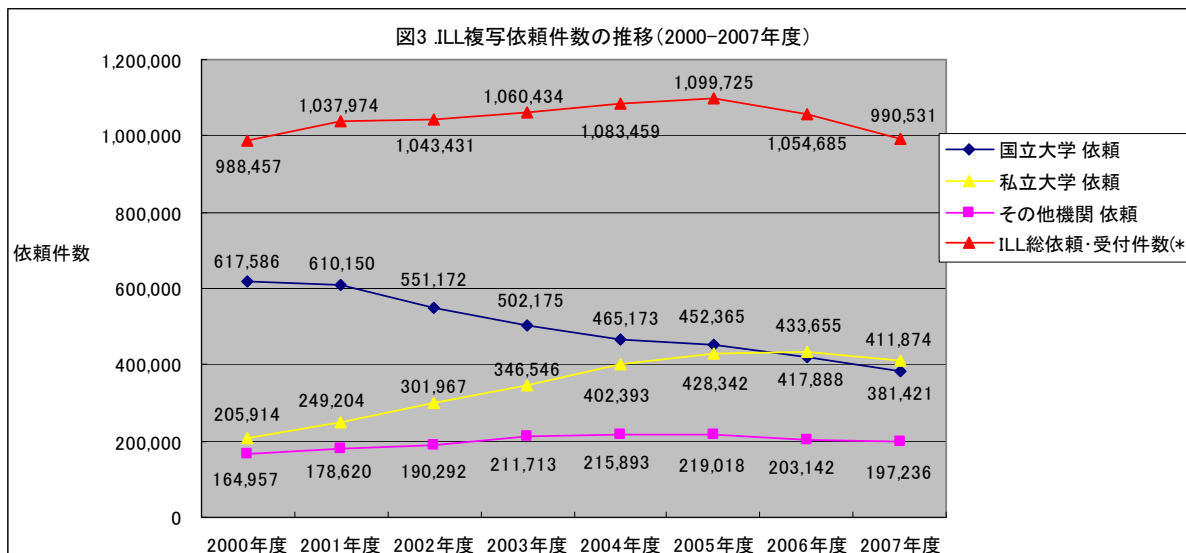
2007 年度末の ILL システム参加機関数は、国立大学は 86 校(全国立大学の 100%)*、公立大学 82 校(全公立大学の 92.1%)*、私立大学 530 校(全私立大学の 91.4%)*、短大高専その他 367 機関である。また、直接のサービス単位である参加組織数は毎年増加している。大学以外の機関の参加も増加し、2007 年度は合計 1,537 組織となった。(図 2)(*: 設置母数は文部科学省の学校基本調査による)



² センター館では、2001 年 7 月に「外国雑誌センター館資料収集方針」を申し合わせ、より効率的・効果的な収集を目指し、2001 年度から 2005 年度の 5 年間をかけて収集誌の整理・見直しを行った。

② ILL システム経由の依頼・受付件数について

2006 年度以降、複写の総依頼・受付件数は減少している。また、2006 年度に依頼件数では私立大学が国立大学を上回ったが(図 3)、受付件数では逆に国立大学が私立大学を上回っている(図 4)。国立大学が文献複写サービスに大きな役割を果たしていることが分かる。



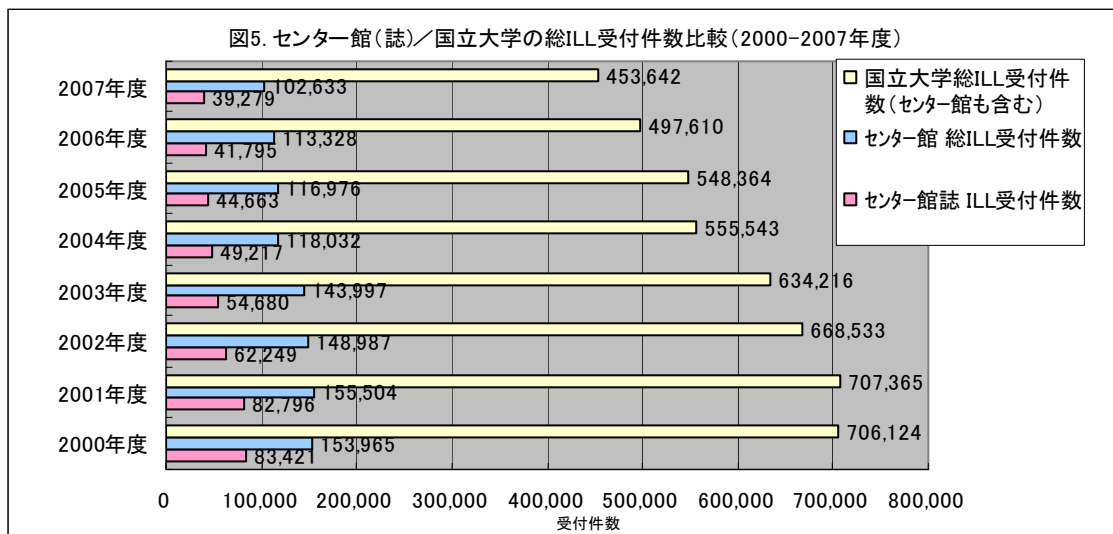
(*「NACSIS-ILL統計情報」では、依頼件数中に謝絶件数を含めていない。そのため、総依頼件数と総受付件数は等しい)

(2) 文献複写サービスにおけるセンター館の機能

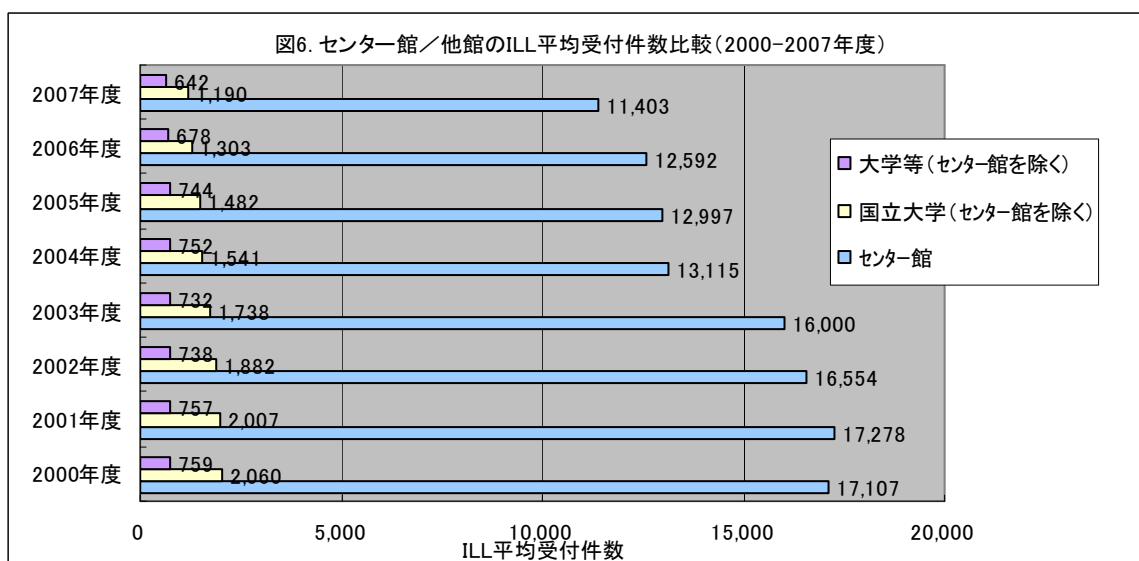
ここでは、センター館の文献複写サービスについて他の機関と比較し、特徴を述べる。

① ILL システム経由の受付件数について

センター館の ILL システム経由受付件数は、国立大学総受付件数と同様に減少し、2007 年度の受付件数は 2000 年度の 67%となっている。国立大学総受付件数におけるセンター館受付件数の割合は、2000 年度以降常に 20%以上であり、2007 年度は 23%である。レア・ジャーナル誌数が増加した 2003 年度以降、センター館の受付件数の約 40%がセンター館誌に対する申し込みである。(図 5)



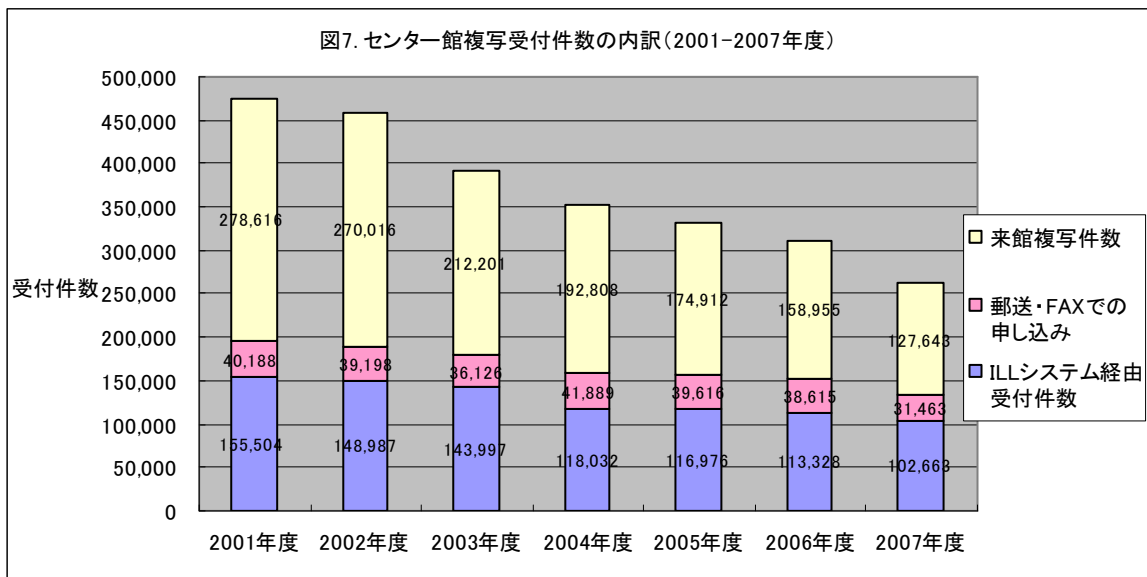
次に、複写受付件数を、大学等(センター館を除く国公立大、短大、高専、大学共同利用機関)、国立大学(センター館を除く)及びセンター館の3者で比較する。2007年度末のILLシステム参加組織数は大学等 1,337、うち国立大学(センター館を除く)は 295、センター館は 9 館である。3者では1参加組織あたりの平均受付件数に大きな開きが見られる。センター館1館あたりの複写受付件数は、2000年度以降常に他の国立大学 8 倍以上であり、2006年度と2007年度は 9.5 倍を越す。(図 6)



以上の結果から、9 館から構成されるセンター館は、学術機関等における ILL 文献複写サービスにおいて中核的な役割を担っていることが裏付けられる。

②ILL システム経由以外の受付について

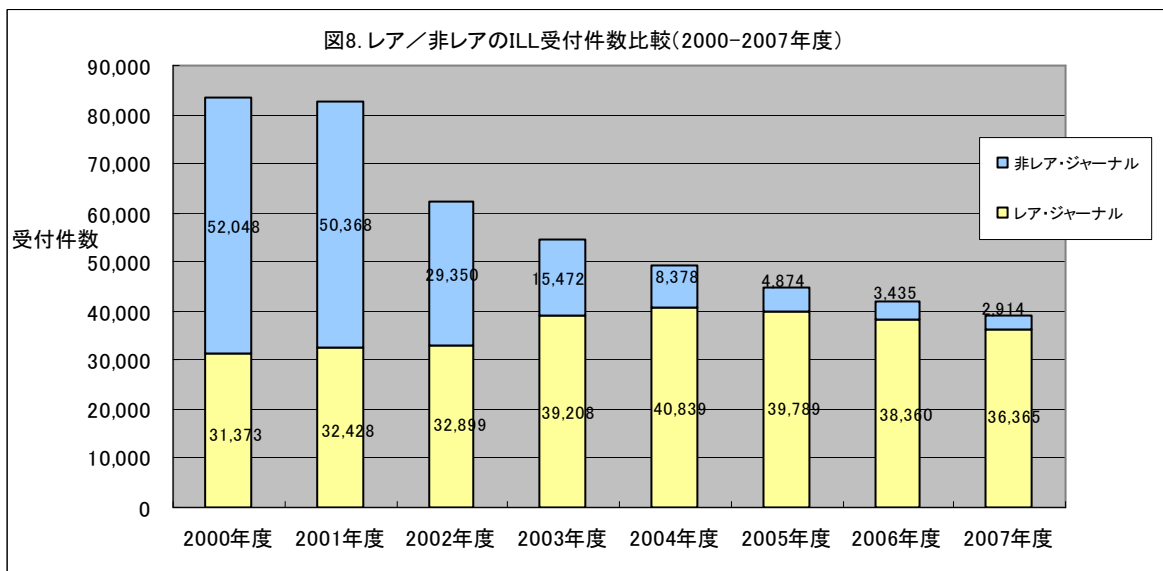
ILL システム経由以外の方法(郵送、FAX、来館利用)によるものは、毎年、センター館総受付件数の 60%を超えている。(図 7) また、郵送・FAX による受付の割合は 2000 年度 8.5%であったが、緩やかに上昇し2007年度は 12.0%である。センター館誌がILLシステムに参加しない機関等の研究者にも、広く利用されていることが分かる。



③ILL システム経由文献複写サービスにおけるレア・ジャーナルの利用

センター館におけるILLシステム経由複写受付件数は、レア・ジャーナルについても2004年度以降若干減少している。

しかし、センター館収集誌のILLシステム経由受付件数に占める、レア・ジャーナルの比率は、毎年上昇して、2000年度37.6%に対し2006年度は91.8%、さらに2007年度には92.6%に達した。これは「1. レア・ジャーナルの収集について」で述べたセンター館誌に占めるレア・ジャーナルの割合とほぼ連動する。レア・ジャーナルの提供がサービスの中核となっており、また、センター館の収集・整理活動が利用者サービスに効果的に結びついていることがうかがえる。(図8)



以上の結果から、センター館ではレア・ジャーナル中心の資料収集と多様な利用者への文献複写サービスの提供により、その機能を十分に果たしているといえる。

3. 今後のセンター館サービスについて

以上より、現在センター館は「レア・ジャーナルの収集」と「文献複写サービスの提供」について、どちらも一定の成果を収めている。なお、「レア・ジャーナルの収集」、「文献複写サービスの提供」ともここ2～3年ほぼ同じ傾向を示し、その活動が安定期に入ったことをうかがわせる。

電子ジャーナル化等、雑誌を取り巻く状況が激変しても、国内未収集の外国学術雑誌等を体系的に収集・整理し、国内外研究者等に提供するというセンター館本来の意義は変わらない。外部環境の変化に対応し、収集した外国学術雑誌による学術雑誌利用のロングテールを実現するためのセンター館の努力は不可欠である。